

57歳から
始める

レンタル

カート

の世界①

モータースポーツの原点、
レンタルカートを
始めよう！！

天見谷行人

神戸にサーキット場があるって？！

今年の（2017年）ゴールデンウィーク間近の4月下旬、
ふと思い立ち、

「そういえば、神戸にサーキットってあるのかなあ〜」

とグーグルで検索。

.....ありました。

それもなんと、僕が住む、神戸の西区。

僕のスクーターで20分走れば行ける距離です。

これにはびっくり。

さっそく[サーキット場のHP](#)をじっくり見ます。

そうこうしているうち、モータースポーツファンの「性（さが）」が言うこと聞かなくなっていました。

もう理性などクソ食らえ！！

気がつく僕は、愛用のオンボロスクーターにまたがり、まっしぐらにサーキットに向かっていました。

僕のスクーターには、iPhoneを取り付けられるようにしてあります。

そのナビをちらちら見つつ、25分ほどかかって無事「神戸スポーツサーキット」に到着。







いきなり、サーキット特有の”サウンド”と「オイルの焼ける香り」に、僕はすっかり嬉しくなってしまいました。

「やってる、やってる」

コースを見ると、3台のレーシングカートが練習走行を行なっています。

生で見るとカートとはいえ、そのスピード、コーナリングの速さ。

紛れもなく「レーシングカー」そのものです。



今日はとりあえず、「どんな雰囲気かなあ〜」とぼんやり見るだけ。

一応サーキット場の事務所へ挨拶に。

「こんにちわ。初めて来たんですけど……」

事務所内では、結構年配のおじさん二人とおばさんが、椅子に座ってのんびりお話中でした。

「あら、いらっしゃいませ」とおばさんが対応してくれます。

サーキット場の案内パンフをいただきました。

「上が観覧席になってます。そこの階段を上がってくださいね」

また、一般客向けに初心者用カートもレンタルできます。



エントリー料金は¥1,000-

コース一周につき250円で走ることができます。

とってもリーズナブル。

モータースポーツって、とにかくお金がかかることが有名なんです、

このようなカート場があることで、その敷居が低くなることは大歓迎ですね。

カートレースは子供達のカテゴリーがありまして、小学生たちが一生懸命走る姿はおもわず

「ガンバレ！！」と声をあげたくなります。

この日は、サーキットのピットにも入れてもらえました。

今日卸したての、まっさらの新車、競技用レーシングカートもじっくり拝見させてもらえました。



この後僕は、この神戸スポーツサーキットに通い詰めることになるのです。

僕のレンタルカート・デビュー

100円あったら、ハンバーガーショップに行くのもいいですが「サーキットに行ってみる」という手もあります。

実はレンタルカートは、100円ぽっきりで走れるのです。



僕は兵庫県神戸市に住んでいます。

同じ兵庫県の[宝塚サーキット](#)では、レンタルカートがコース一周、なんと、たったの100円で走れるのです。

「どうせ、遊園地のゴーカートでしょ？」

と僕も思っていました。

ところが……。

今年（2017年）のゴールデンウィーク、5月1日。

『ほんのお遊び』のつもりで、レンタルカートに乗ってみたのです。

場所は神戸スポーツサーキット。

受付でショバ代を払います。

まずは千円。

そして、住所、氏名、電話番号を、レンタルカート申込書に記入。

僕の場合ビジター料金ということで、コース一周は250円。走り終わったあとで精算します。

このあと、係りの人に連れられて、いざピットへ。

なお、カートに乗り込むには、長袖・長ズボンに、スニーカーが基本です。

女性の方は、ハイヒール不可、マフラー、スカーフの類もノーグッドですのでご注意ください。

さて、僕は自分のスクーターで行ったので、自前のヘルメットをかぶります。



手には、滑り止めの軍手をはめます。

(神戸スポーツサーキットでは、ヘルメットと手袋、フェイスマスクは無料で貸してくれます)



さて、なんか、おもちゃのようなゴーカートがずらっと20台ぐらい並んでいます。



そのうちの1台に係りの人が何やら黄色い、小さな箱を取り付けました。



そのあと、カートに乗り込む手順が説明されました。

「まずはスニーカーのまま、シートの上に立って見てください、そのあとで、左手でハンドルを持って、右手でシートの上をつかんで乗り込んでください」

はあ、そうですか。

よっこらしょっと、カートに乗り込みました。

シートはぎちぎち。

それになにより

「.....低い.....」

地面の上に座ってるみたい。

そのあとハンドルを握った瞬間

「なんじゃこりゃ〜！！」

ハンドルが重たくて動きません。

係りの人は

「右足がアクセルです。左足がブレーキ。ではエンジンをかけましょう」

とって、ハンドルについているボタンを押しました。

セルモーターがかかります。

「アクセルをちゃんと踏んでみてください」

アクセルをちゃんと踏み込む。

バタバタばた。ドタバタ。

なんか、田んぼで耕運機を動かしているような音がする。

エンジンは無事かかりました。

「今日、初めて乗られるんですね。では、コースの右端を走ってください。コースの真ん中を走ると危ないです」

とのこと。

ちなみにカートにバックミラーはなし。

どうするのか？ と聞くと

「だいじょうぶですよ。速い人は勝手に抜いて行ってくれますから」とのこと。

「はあ、左様ですか……。」

と習った通り、コースインの手前で一旦停止をし、コースインしますよ、と右手を高く上げます。



カート専用コースを、とりあえず右側を舐めるように走ってみる。

いや、走るというより、歩くぐらいの速度しか出せない。

なにしろ、震動とスピード感。

体感速度三倍の世界なのです。

なので.....

時速20キロでも、初心者にはそれこそ、時速60キロぐらいに感じます。

怖くてこんなの、アクセル全開なんて出来っこない。

そんなことを思っていると左後ろから

「ヒューーン！！」

「ビシューーン！！」

凄まじいスピードでカートが駆け抜ける！！



57歳のハラの突き出たおじさんは、

「ひええええ〜！！」

とヘルメットの中で叫んでいました。

まさにサーキットを這いずる『かたつむり』です。

こんな風にして僕は、レンタルカートデビューを果たしたのです。

(ちなみに、僕の短編小説で[「走れカタツムリ君」](#)があります。無料公開中です。こちらもどうぞよろしくね、ウフッッ
気持ち悪っ)

レンタルカートは遊園地のゴーカートと違い、最高速度60km/h以上出てしまいます。しかも、路面からの高さは、わずか数センチ。



体感スピードは通常2倍、人によっては（特に初心者は）3倍に感じるようです。

つまりは、120km~180km

そのスピード感覚で、回転半径の鋭いカーブを、アクセル全開で駆け抜けてゆくようなものです。

これ、一般公道では、とてもできないでしょ？

ところが、それを.....

まだ小さな幼稚園生や、小学生たちが、“ひょい”っていうかんじで、やってのけるのです。



カートは4歳から乗ることができます。

レーシングカートを4歳から10年続ければ、14歳、中学2年生でしょうかね。

それでキャリア10年の”ベテランレーサー”になれるわけです。

ちびっ子たちは体重が軽いぶん、ハラの突き出た親父レーサーたちよりも、いろんな面でかなり有利です。



日本人初の”F1”レギュラーシーズン・ドライバー、中嶋悟さんや、鈴木亜久里さん。今や『レジェンド』となった伝説のレーサーたち。彼らも、実はレーシングカートから初めて、徐々にステップアップしていきました。10代でカート全日本チャンピオン、しかも、それなりにルックスもよければ、もう、マスコミや、大手の自動車メーカー、タイヤメーカー、部品メーカー、そしてなにより、レーシングチームが放っては置かないでしょう。「うちのマシンをテストしてみないか？」というお声もかかってくるかもしれません。それが女性レーサーとなれば、さらに注目度はアップ。企業にしても注目される選手には金を出します。そうして速い選手は、より速く、そしてレースに”勝てる”「強い選手」に成長してゆくのです。

カート出身の選手たちの強みは、比較的低い速度で「走る」「曲がる」「止まる」という、車の挙動を体に染み込ませていることにあります。車を運転するうえで大切な「基本中の基本」が、日頃のトレーニングや、本番のレースを通して、身につけてしまっているのです。どんな「習い事、お稽古事」でもそうですが「基本は大切です」

基本があってこそ「応用が効く」のです。

だから、車の基本であるところの「カート」を若い時期に学んだ選手たちは上のカテゴリーにステップアップしても、比較的容易に順応してゆきます。

さらにカートレースのよさは、

「ここ一発の速さ」はもちろん、

「レースの駆け引き」を学べるというところにあると思います。

だから、カートチャンピオンになった選手が、上のカテゴリーであるフォーミュラジュニアやF2などでも、いきなり上位入賞という結果さえも残してゆくわけです。

残念ながら、今の日本では、カートレースは、存在そのものが、全く知られていないといっているでしょう。

テレビや新聞なども全く取り上げない。

対照的なのが.....

カートレースと同じく

エンジンが「くじ引き」という『ボートレース』を比較して見ましょう。

スポーツ新聞をご覧ください。

本当に呆れますよ。

よくまあ、これほどご丁寧に、と思うほど、毎日『ボートレース』の記事が載っています。

『ギャンブル』なら新聞に載せるけど、「健全な青少年」のためのスポーツはスポーツ新聞にすら載らない。

一体、この日本という国は、何を考えているのだろうか？

若者たちを育てよう、という気持ちが、本当にあるのだろうか？

日本にスポーツとスポーツ文化、さらには「モータースポーツ」の文化が根付いているなんて、これっぽっちも言えない状況なのが、これを見てもわかります。

レンタルカートは、モータースポーツの世界を手軽に体験できます。

なにせコース一周たったの100円で体験できるのですから。

とても敷居がひくいです。

フレンドリーです。



安い！ 速い！ 面白い！

しかも安全安心。サーキットは実は、一般公道や、それこそ歩道を歩くより、よほど安全なのです。（今や、歩道を歩いている、自転車にぶつけられそうになりますからね）

おまけに冷酷無比ともおもえる「ラップタイム」

これは、カートに下の黄色い小さな箱「トランスポンダー（略してポングーとよばれています）」

を取り付けているからです。



これは電気信号の中継装置です。

サーキットには何箇所か、電磁信号を発してるポイントがあるそうで、そこを車が通過すると、トランスポンダーがその信号を受け取り、コントロールタワーに送信します。

このため、今日、レンタルカートに乗り始めた人でも

『1/1000秒単位』

でタイム計測してくれます。

気分はF1レーサーです。

誰が見ても、早い、遅いが一目瞭然！

実はこれがいいのです。

例えば僕は今、神戸スポーツサーキットで、レンタルカートに乗っています。

ベストラップは1分11秒（2017/5月現在）

これが具体的な目標として、目の前にぶら下げられるわけです。

僕は次にサーキットに行く時には、ぜひ1分10秒台を叩き出してみたい。

それがチャレンジ精神を生むのです。

やる前から諦める、

「そんなもん、できるわけがない、無駄だ！ やめとけ！！」

「そんな危ないものはやめろ」

車のウインカーを”右に出しながら左に曲がる”大人たちが、鼻でせせら笑いながらそん

なことを言っています。

レンタルカートに乗ったこともないのにね。

でも、僕はレンタルカートに出会って、モータースポーツの原点に出会って、本当に良かったなあ～と思っています。

ここには

「やってみなけりゃわからない」

「いくら失敗しても大丈夫」

「チャレンジ大歓迎」

そういう世界が、目の前に、広大な地平線として、果てしなく広がっていたのです。

『こんな世界があったんだ』

しかも、努力した結果が

「ラップタイム」

という数値で表示されます。

頑張っ、歯を食いしばって、カーブで首を吹っ飛ばされそうになりながら出したタイムが、昨日よりコンマ何秒か速くなった！！

この数字は誰がどうみたって動かしようがありません。

自分の努力の具合が、白日の下にさらされる。

サーキットでは速度制限はありません。

何百キロで走ってもかまいません。

速ければ速いほど、褒められます。尊敬もされます。

こんなことを一般道でやったら、即刻免停、ないしは免許取り上げでしょう。

社会人、オトナの世界にはいると、いろんな理不尽な目に出会います。

それも、ほぼ毎日のように。

そりゃもう、ストレスなんてもんじゃない、中には過労で自殺に追い込まれる人も出て来ていますよね。

僕もその崖っぷちにまで追い込まれた一人です。

今は仕事も辞め、セミリタイアして、のんびり趣味の物書きをやりながら過ごしています。

人生の酸いも甘いも味わった、おじさんの目の前に現れたもの。

それが、レーシングカート、レンタルカートの世界でした。





何十年ぶりだろう？

もうすぐ還暦のおじさんが、もう、無我夢中になってのめり込むもの。我を忘れて熱中してしまうもの。

レンタカートは敷居が低く、そのうえ極めようとする、とてつもなく奥深い世界なのです。

新しい目標を見つけ、僕は今、もう、嬉しくってしょうがないのです。

レンタルカートを活用しよう！

『レンタルカート』やモータースポーツとしての「レーシングカート」の世界。
なぜ、一般の人には知られていないんだろう？

ふとそんな疑問が浮かびました。

レンタルカートは、乗ってみると、本当に楽しいです。



もっとたくさんの人に乘って欲しいと思います。

レンタルカートに乗るといろんなことがわかります。

まず「走る」「曲がる」「止まる」という、車の『基本中の基本』

それから、サーキットでは規則に従わないと走れない、ということ。

自分の身を守るために、レンタルカートに乗るときは、長袖、長ズボン、ヘルメットに、手袋をして走ります。



たかが、そんなこと、カートをする人にとっては『当たり前』です。

でも、一般道を走る人たちはどうでしょう？

スマホをしながらの片手運転。

原付バイクの、”首に引っ掛けた”ヘルメット。

自転車の信号無視。

交差点の斜め横断。

まじか！！

ありえないでしょ？！

と思えるような光景が、一般公道で”平気な顔で”「日常茶飯事に」”危険行為”が行われています。

(なお、今、小学校では、自転車指導にとっても熱心だそうです。自転車保険も兵庫県では義務になっているとのこと。これは先日、自転車ショップの方から聞きました。)

そんな危険行為を平気で行う人たちが、教習所で車の運転を習い、免許を取り、一般公道に出てゆく。

そしてまた、危険な運転をする。

さらには意味不明な改造をして、大きな音を立てて、迷惑行為を平然とやる。

「世間の人」は、だから、モータースポーツは危険な人たちがやるものだ、とハナから決めてかかる。

もう……

ああ……。ため息しか出ないです。

全く負の悪循環ですよ。

また「モータースポーツはお金がかかる」

というイメージがあります。

実は僕もそう思っていました。

しかし……

そんな僕の目の前に現れたのが

「レンタルカート」

だったのです。

神戸スポーツサーキットでは、

エントリー料金をまず千円支払います。

あとはコース一周250円

(なお、会員料金5,000円で、コース一周150円になります)

ぼくはいつも3,000円だけを握りしめて、サーキットに通っています。
サーキット会員になっているので、コース10周以上走行可能です。
もう、楽しいのなんの！！

それでいて

「おおお〜っと、アマミヤ選手、4コーナーでスピン！！」

「ムムムッ！！ (ここは川平慈英さん風に) アマミヤ選手、最終コーナー、リアタイヤが滑った！ ドリフト、ドリフトおおお〜！」

なあ〜んて、ヘルメットの中で、自分で実況解説しながら、僕は走ってますよ。

(まるで、ドリキン土屋こと、土屋圭一さんみたいですね)

最近になってそんな余裕が出てきたんですね。

あああ〜、「痛いおじさん」ですね。

でも、いい年したおじさんが

「子供に帰れる」



もう、無我夢中です。
歯を食いしばって、
凄まじい横Gで首を吹っ飛ばされそうになりながら、
コーナーを全開で駆け抜けてゆく。
これぞ、正真正銘のモータースポーツ。

それが
たった





「二百五十円」

あれば体験できるのですよ。

しかも『安全に』。

なんでみんなやらないの？

不思議でしょうがない。

たとえば車の教習の過程で

試しにカートでスピンする、という体験を取り入れるといいと思います。

一般車でも激しい雨の中だと、スピンする恐れは多分にあるんだよ。

その時は、逆ハンドルをこういう感じで操作すると、車を立て直すことだって、できるんだよ。

ということが、カートですと簡単に、しかも安全に学べます。

ぼくはもっとレンタルカートを交通安全のために、

ドライバーのスキル向上に、活用すべきだと思います。

もちろん、カートはモータースポーツの入門に最適のカテゴリーです。



費用もレンタルカートなら、一回あたり三千円程度あれば十分楽しめます。

みなさん、どうですか？

あなたもレンタルカートに乗ってみませんか？

楽しいですよ。

目指せ！ 最速ラップその①

さて、四捨五入すると還暦というおっちゃんが、人生初カートデビュー。

それは今年（2017）5月1日のことでありました。

それ以来どっぷり「レンタルカート」の世界にハマっております。

いきつけの

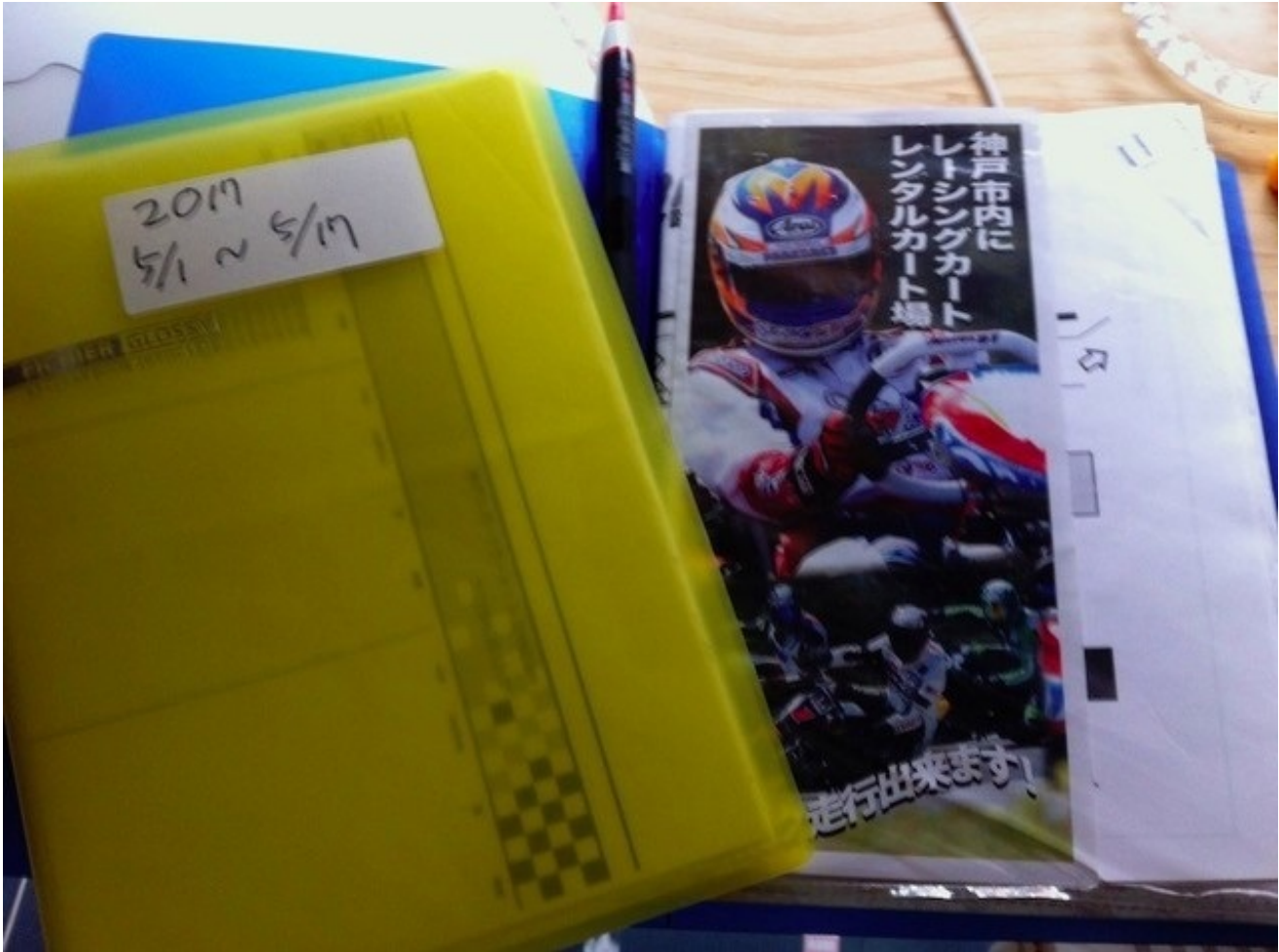
神戸スポーツサーキット

では、自分のラップタイムをプリントアウトしてくれます。

いままでの走行記録は

『門外不出極秘ファイル』二冊に

全て時系列にファイリングしております。



そこで今までの僕の走行記録を振り返り、

『恥を忍んで』

公開しようと思います。

もうこれはねえ～。

人前でパンツを脱ぐぐらい恥ずかしいですが.....。

まずは人生初カートデビューの5月1日の記録です。

5月1日

練習 開始時間 8:49:52

Lap	Laptime	差	時刻	Lap
<u>(67) 青末 正信</u>				
p1	7:53.759	+6:17.674	10:15:20.436	
2	24:06.769	+22:30.684	10:39:27.205	
3	2:40.503	+1:04.418	10:42:07.708	
4	2:19.524	+43.439	10:44:27.232	
5	2:03.580	+27.495	10:46:30.812	
6	1:46.460	+10.375	10:48:17.272	
7	1:43.974	+7.889	10:50:01.246	
8	1:36.085		10:51:37.331	
p9	4:36.712	+3:00.627	10:56:14.043	

えっつ！！

2分40秒？！

亀が散歩でもしてるんかい！？ という鈍足。

午前中の最速は1分36秒。

一旦ピットに帰ってくると、ヘルメットを脱ぐなり、僕はへたり込んでしまいました。

想像を絶する横Gとスピード感に圧倒されたのです。

しかし、

「オモロイ！！」

この日は午後からも走行。

他のカーターの人たちから、アドバイスをいただきました。

「1コーナーはアクセル踏みっぱなし。ノーブレーキだよ」

「えっつ！！ マジですか！！」

そんな、命がなんぼあっても足らんど.....。

と思いつつ、まあ、とりあえずトライして見ました。

(コース図右下が1コーナー)



アドバイスをいただいた、1コーナー。

歯を食いしばってエンジン全開。

「俺は特攻隊だ!!」とコーナーに突っ込みました。

この横Gはまさしく

『未知の領域』

そして数字が残りました。

	2:13.524	+55.695	10:44:27.232
5	2:03.580	+39.751	10:46:30.812
6	1:46.460	+22.631	10:48:17.272
7	1:43.974	+20.145	10:50:01.246
8	1:36.085	+12.256	10:51:37.331
p9	4:36.712	+3:12.883	10:56:14.043
10	1:18:35.004	1:17:11.175	12:14:49.047
11	1:30.753	+6.924	12:16:19.800
12	1:28.136	+4.307	12:17:47.936
13	2:34.207	+1:10.378	12:20:22.143
14	1:23.829		12:21:45.972
15	2:29.728	+1:05.899	12:24:15.700
16	1:24.856	+1.027	12:25:40.556
17	2:09.817	+45.988	12:27:50.373
18	1:24.592	+0.763	12:29:14.965
p19	1:36.458	+12.629	12:30:51.423

15

人生初カートの最速ラップ

1分23秒829

「努力は必ず報われる！！」

たかみな前総監督、やっぱりあんたはエライ人だよ、

とつくづく思いましたねえ～。

努力の跡が、全て客観的に

「ラップタイム」という動かし様がない「事実」「リアル」

で表示される。

こんな楽しい世界があったんだ！！

僕はこの日から神戸スポーツサーキットに通いつめることになります。

(続く)

57歳から始めるレンタルカートの世界①

<http://p.booklog.jp/book/115923>

著者：天見谷行人

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/mussesow/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/115923>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト